

第11講	欧米近代史①	学習日 月 日	名前:
------	--------	---------	-----

1. 産業革命 … 18世紀後半にイギリスではじまる(タペストリーp180~)

【背景】

- ・ 重商主義政策、毛織物マニュファクチュアの発達 → 資本の蓄積
- ・ (1) 運動 → 農民が都市労働者となる
- ・ 海外に広大な(2) を獲得 … 原料供給地、商品市場を確保

【発展】

- ・ 技術革命 … (3) の飛び杼など棉工業の技術革新
- ・ 動力革命 … 18世紀半、(4) が蒸気機関を改良
- ・ 交通革命 … 1814 (5) が蒸気機関車を開発
→ 1830 (6) (7) 間で鉄道営業運転開始

【影響】

- ・ イギリスは(8) とよばれ、19世紀に圧倒的な覇権国家となる
- ・ (9) の確立 … 資本家が労働者を雇って利潤を追求
→ 労働問題、社会問題の発生

2. アメリカ独立戦争(独立革命) … 18世紀後半にイギリスの植民地から独立

17~18世紀 イギリスが北米沿岸に(10) を形成

- ・ 政治的自由、経済的自由、宗教的自由を求める人々がヨーロッパから移住
- (11) の終結後(1763)、イギリス本国が植民地への課税を強化
- ・ (12) の発布(1765) → 植民地で課税撤廃を求める運動が起こる
- ・ 植民地側のスローガン(13)
- ・ (14 ポストン茶会事件) (1773) … 茶法に反対した植民地人による
→ イギリス本国とアメリカ植民地側の対立が深まる

1775 アメリカ独立戦争が勃発 … 植民地軍の司令官は(15)

1776 (16) を採択、(17) が起草

- ・ 人間の自由・平等・人民主権・社会契約説・革命権を明記、(18) の影響

1783 独立戦争が集結 … イギリスがパリ条約でアメリカの独立を承認

1787 アメリカ合衆国憲法の制定 … (19) にて

- ・ 厳格な(20)、各州に大幅な自治を認める(21) を採用

3. フランス革命

【原因】

(22) =旧制度 … 聖職者・貴族だけに免税特権
財政難 … ブルボン朝の国王(23) が財政改革を試みるも失敗
→ 特権身分の課税協議のため、ヴェルサイユで三部会を開催 But 紛糾

【経過】

1789 パリ市民が(24) を襲撃
1789.8 (25) を採択 … アメリカ独立宣言の影響
1789.10 (26) … 国王一家をヴェルサイユからパリへ連行
1791.6 (27) → 国王への信頼失墜
1792.4 オーストリアと開戦 = 革命戦争の開始
1793.1 革命派が国王(28) を断頭台(ギロチン)で処刑
1793.6 ジャコバン派が恐怖政治を開始 … 指導者(29)
1793.7 (30) の無償廃止 … 自作農が大量に発生
→ 農民の保守化、産業革命の遅れ
1794.7 (31) のクーデタ … 恐怖政治の終わり
1799.11 (32) … フランス革命の終結

【ナポレオン時代】(1799~1815)

イタリア遠征、(33) で頭角を現す

ブリュメール18日のクーデタ(1799)で実権を掌握

1804 国民投票で皇帝に即位、(34) となる

イギリス上陸に失敗 → ヨーロッパ大陸制覇へ

- ・ 1806 ドイツの(35) を滅ぼす
- ・ 1806 (36)

スペインなど各地で抵抗運動 … (37) =国民意識の高揚

(38) (1812)の失敗 → ナポレオンは退位、エルバ島へ流刑

1815 ナポレオンの百日天下 → セントヘレナ島に流刑・死刑